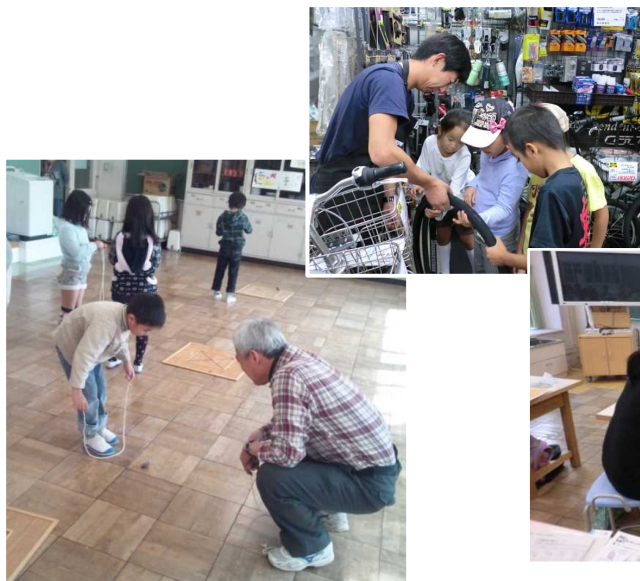


地域のバトンをつなぎ続けるために

コミュニティ・スクール導入10年の三鷹市の現場から



CSマイスター
みたかスクール・コミュニティ・
サポートネット共同代表

四柳 千夏子

課題その1

Why?

どうしてそんなに一生懸命やれるのですか？



熱意がある人だけがやれることなのだろうか？



地域のモチベーションはどこにあるのか？

- 地域が関わって現れた成果は？
- 私たちのやりがいは？
- 私たちの存在意義は？



あなたは明確に説明できますか？



説明できないと、次の人に引き継げない！？

課題その2

三鷹の学校運営協議会会則(全学園共通)
(任期)

第4条 委員の任期は、2年以内とし、再任を妨げない。ただし、引き続いて4任期を越えて在任することはできない。

(会長及び副会長)

第5条5 役員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、引き続いて4任期を越えて在任することはできない。



コミュニティ・スクールを
新しく担っていく地域人財の育成とバトンタッチ法
急増するCS委員卒業生の居場所？活用法？

- 熱い思いがないとできないのだろうか？
- 前任者と同じようにやればいいのか？
- 前任者と同じことをやらなければいけないのだろうか？
- 誰か一部の人が過度な負担をしなければいけないのだろうか？
- 協議会そのものの運営の方向性はこれでいいのだろうか？



自分たちだけで
悩まなければ
いけないのだろうか？



pixta.jp - 3265892

地域の本音のツブヤキ



- 乗りかかった船だから仕方ないけど、なんで私がやらなきゃいけないの？
- 私たちの進め方、間違っていないの？
- 「助かります」って先生は言うけど、私たち、本当に役に立っているの？

私たちだって
「役に立ってる！！」
と確信したい！！



地域の「自己有用感」を引き出す工夫

課題解決に向けて

会議の方法を工夫する

熟議

ふりかえりをする

フィードバック

私たちも「役に立ってる！！」

役割分担

一部の人への負担になら
ないようにする

改革

やらなくていいもの
やり続けるべきもの

【熟議】



- 会議に出ている人全員の意見を引き出す
- 人の意見を聞き、さらに見える化
- 一部の人の意見に左右されない

⇒「会議に参加している」「意見を言えた」感
意識改革



- ＜熟議でのルール＞
- ★付箋には一枚に一つのことを書く
 - ★人の話をよく聞く
 - ★人の意見を否定したり批判したりしない
 - ★一人でたくさんしゃべらない



＜熟議の進行の一例＞

- ①各テーブルに模造紙、付箋、マジックを用意する
- ②自己紹介をする
- ③役割を決める(進行役、マジック係、発表係など)
- ④与えられたテーマについて自分の意見を付箋に書く
- ⑤グループで話しながら模造紙に付箋を貼っていく
- ⑥グループで話しながら付箋を仲間分けしていく
- ⑦グループでまとめたものを発表する
- ⑧出た意見の中から、1つでも「やってみる」
- ⑨やってどうだったかを振り返る

＜熟議に臨むために大切な視点＞

- 当事者意識
- 相互理解
- ビジョンの共有
- 課題解決

